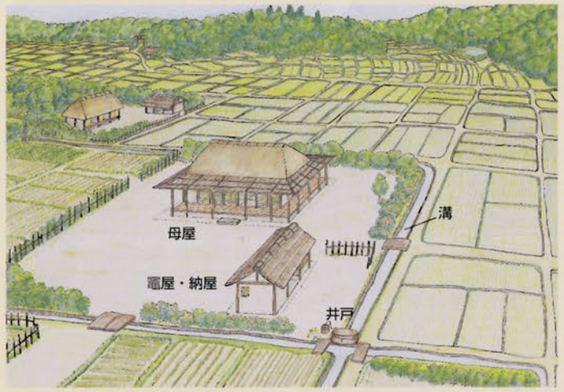
房総の文化財

VOL.21
平成12年2月29日
財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850
ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai

発掘調査速報

農村の原風景・中世の屋敷群 —君津市三直中郷遺跡—



屋敷跡から想像した中世・三直中郷遺跡の景観／画：笹生　衛

三直中郷遺跡は、君津市内を南北に流れる小糸川に面した微高地上にあります。

遺跡の位置する君津市三直は、鎌倉時代から室町時代までは「三直郷」と呼ばれ、鎌倉の武士や大寺院の領地（荘園）となっていた地域でもあります。

平成10年度の発掘調査によって、7か所の屋敷跡の存在が明らかになりました。屋敷の一つは面積70㎡（約20坪）ほどの掘立柱の母屋を中心に、竈屋（台所）兼納屋（物置小屋）と思われる小さな建物が配置され、さらに井戸が掘られていました。

屋敷の広さは、大小があるようですが、30m四方（約270坪）の広さの屋敷も確認できました。このような屋敷は溝を境とした形で発見され、中世のムラ・三直郷の一部と考えられます。

出土した遺物には、中国製の青磁・白磁・染付、瀬戸焼の碗・皿・擂鉢、常滑焼の鉢・甕、素焼の皿、漆器椀などがあり、中には細かな模様を彫り込んだ白磁皿や、青い顔料で「福」の文字を書いた染付碗などの高級品も含まれています。これらの遺物は、在地の有力者層の屋敷で使用されたものと思われます。

柱の跡が整然と並ぶ屋敷跡（南から）

また、遺物の年代から、屋敷は鎌倉時代（13世紀代）から江戸時代初期（17世紀前半）まで、多少位置を変えながら、ほぼ継続して使われていたことが分かりました。そして、これらの屋敷は長い年月を経て、現在も遺跡の近くにある農家の屋敷へと、受け継がれていったようです。

こう考えると、今回の発掘調査で発見された屋敷跡は、まさに現在の農村の原風景ということができるでしょう。

遺跡今昔物語

—古代北総地域の中心地・萱田—
萱田地区発掘調査

白幡前遺跡全景
（1982年撮影／提供：八千代市教育委員会／撮影：森昭）

八千代市の南西部、東側に新川を見下ろす台地の上に、「ゆりのき台」の街が広がっています。ここは、住宅・都市整備公団（現・都市基盤整備公団）の萱田特定土地区画整理事業によって生まれた新しい街です。

事業に伴い、昭和52年から平成3年にかけて、権現後遺跡、ヲサル山遺跡、北海道遺跡、井戸向遺跡、坊山遺跡、白幡前遺跡の6遺跡が発掘調査されました。その結果、約3万年前の旧石器時代から奈良・平安時代までの生活跡が見つかりました。

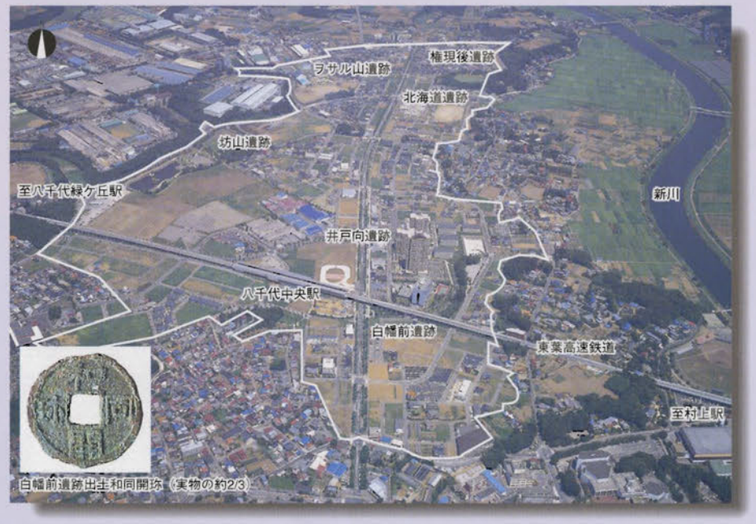
中でも、奈良・平安時代の遺跡からは、総数552軒というたくさんの竪穴住居跡が発見されました。そこからは、和同開珎、三色の釉薬のかかった陶器（三彩小壺）、年号や地名・人名・人の顔などが書かれた墨書土器（「村神郷丈部国依甘魚」ほか）などが出土しました。また、小規模なお寺と思われる建物跡や、粘土を焼いて作られた瓦塔（五重塔）の破片、小さな青銅製の仏像など、仏教に関連した遺構や遺物もたくさん見つかりました。

こうした墨書土器などから、この北総地域が、古代の「下総国印旛郡村神郷」に属した中心地であったことがわかります。

なお、萱田地区の資料は、八千代市歴史民俗資料館で保管・展示されています。

井戸向遺跡出土三彩小壺（実物の約２／３）
撮影：堀越知道

井戸向遺跡出土青銅製小仏像（ほぼ実物大）



白幡前遺跡出土和同開珎（実物の約2/3）

鉄道も開通し、すっかり街らしくなった「ゆりのき台」（1993年撮影／提供：都市基盤整備公団千葉地域支社）
（掲載出土品／八千代市教育委員会所蔵）

遺物紹介コーナー

親の悲しみと願い・埋甕 —酒々井町墨古沢遺跡—

家の中心に向かって傾いていることが多い（近年の耕作により、土器の一部が破損していた。この埋甕に穴があいていたかは不明）

縄文時代（主に中期から後期にかけて）の竪穴住居跡の出入り口と思われる辺りから、埋められた土器が見つかることがあります。時には、土器の底もしくは側面に小さな穴があけられていることもあります。

なぜ、出入り口の下に埋められ、土器に穴があけられたのでしょうか。実は、そこには、今も昔も変わらない親の子に対する深い愛情があったようです。

今でも出産は大変なことですが、医学の知識もない当時は、それこそ生きるか死ぬかの一大事だったに違いありません。死産だったり、生まれてまもなく死んでしまったりということが、今では考えられないほど多かったでしょう。そのようなかわいそうな赤ちゃんや胞衣（胎盤）を納めたのが、この「埋甕」だと考えられています。

家の中や家のすぐそばに埋めたり、土器に穴をあけるのは、再びおなかに戻って生まれ変わって欲しいという、わが子に対する親の願いが込められているのかもしれません。

また民俗例から、土器の中に納めたのは、無事に生まれてきた赤ちゃんの胞衣であり、その土器を出入り口に埋め、家の人が踏んだりまたいだりすればするほど、その子が丈夫に育つという風習があったという説もあります。いずれにせよ、子供に対する愛情の表れであることには違いありません。

なお、墨古沢遺跡の発掘調査は、平成12年度も継続して行われます。

墨古沢遺跡の竪穴住居跡と埋甕

日本の時代区分表

旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	江戸時代	明治	昭和	平成
約60万年前（宮城県上高森遺跡）	約12000年前	約2300年前	約1700年前	西暦 794	710	1192	1333	1573	1603	1868	
	（100年を5㎜で表現してありますので、縄文時代は約50㎝にもなります）							安土・桃山時代		大正	

BC（紀元前）　AD（紀元後）
古代　中世　近世　近・現代

埋文レポートコーナー

“歩きながら、郷土の歴史に触れよう！”

「ウォーク・イン古代」

この企画は、今回で６回目を迎え、昨年10月23日（土）に富津市・君津市を舞台に開催されました。

当日は、約50名の参加者があり、調査中の君津市沖込遺跡の見学と併せて、古墳時代から近世の遺跡を回りました。主な見学場所は、富津市弁天山古墳（国指定史跡）、富津市内裏塚古墳群の三条塚古墳・内裏塚古墳・九条塚古墳・森山塚古墳と飯野陣屋跡、君津市九十九坊廃寺跡でした。

参加者は、例年になく遅い秋の訪れを感じながら、古への夢を膨らませていました。

弁天山古墳の墳頂部で説明を受ける参加者

平成１１年度千葉県遺跡調査研究発表会

千葉県文化財法人連絡協議会と千葉市教育委員会は共催で、１月23日（日）、千葉市文化センターホール及び市民サロンにて、県内の埋蔵文化財発掘調査の研究成果を発表しました。

当日は、県内外の研究者や一般県民など約570名が参加し、研究発表と出土品の展示解説を熱心に聞き入っていました。

当センターは、館山市東田遺跡（弥生～古墳時代）の調査結果を発表し、遺物や写真パネルなどを展示しました。

展示を熱心に見学する参加者

お知らせコーナー

●図書室のご案内

当センターの本部（四街道市）に、埋蔵文化財に関する資料を集めた図書室があります。主な役目は、職員の調査研究に係わる情報や資料を収集して提供することです。現在では、県下の埋蔵文化財情報のセンター的な役割も果たしています。

蔵書内容は、全国の遺跡発掘調査報告書、歴史・考古学関係の図書・雑誌、県内外の埋蔵文化財センター等の年報・紀要、博物館図録などで、約５万８千冊を所蔵しています。

開室は、月曜日から金曜日（祝祭日、当センター休業日を除く）の午前９時から午後５時までで、一般の方も利用できます。

閲覧を希望される方は、下記にお問い合わせください。

●問い合わせ：当センター図書室　☎043-422-8811(代表)

スタッフ一同、皆さまのご利用をお待ちしています。

●「土器ッと古代“宅配便”」

ー見て・さわって歴史体験ー　スタート！

これは、県内の小学校、中学校、高等学校、養護学校、ろう学校、盲学校、公民館・社会教育施設等を対象に、当センターが保管している土器・石器（旧石器時代～中近世）や写真資料などのセットを提供し、授業や講座に役立てていただきたいという新企画のことです。

セットは、時代別に箱詰めし（約40㎝×60㎝×30㎝の箱で全５箱程度）、活用したい時代に合わせて提供します。

普段、実物にさわる機会が少ない児童・生徒や県民の方々に、じかに触れてもらい、肌で本物の歴史を味わってもらいたいというのが私たちの願いです。是非、ご利用ください。

●問い合わせ：当センター資料課　☎043-422-8811(代表)

■表紙について

和鏡「甜瓜双鳥鏡」（千葉市有吉北貝塚の中世土壙墓から出土）
青銅製、面径9.7㎝、縁高0.5㎝、重量123.8ｇ
撮影：堀越知道

■訂正とお詫び

広報紙20号に誤りがありましたので、訂正しお詫びいたします。

【発掘調査速報】

左段（誤）竪穴住居→（正）竪穴住居。（誤）土器がかぶせられていらうえに→（正）土器がかぶせられていたうえに

【遺跡今昔物語】

（誤）写真の説明「東総用水の工事風景」→（正）「東総用水の工事風景／提供：水資源開発公団東総管理所」